

[ 分 類 ] 普及技術

[ 成果名 ] 稲のフタオビコヤガ（イネアオムシ）防除にジノテフラン（アルバリン/スタークル）粉剤 DL が有効である。

[ 要 約 ] 稲のフタオビコヤガ（イネアオムシ）防除にジノテフラン（アルバリン/スタークル）粉剤 DL を 10 アール当たり 3kg 散布する。特に蚕毒が強いので、桑にかからないように桑園付近では使用しない。また、ミツバチに対する影響が大きいので注意する。

[ 担 当 ] 農事試験場病害虫土壌肥料部

[ 部 会 ] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

近年、フタオビコヤガによる被害が問題となっている。そこで、本田で使用できる薬剤を充実させるため、ジノテフラン（アルバリン/スタークル）粉剤 DL の防除効果を検討した。

### 2 成果の内容・特徴

- (1) 稲のフタオビコヤガ防除にジノテフラン（アルバリン/スタークル）粉剤 DL を 10 アール当たり 3kg 散布する。

#### 農薬登録内容

ジノテフラン(アルバリン/スタークル)粉剤DL

[一般名及び成分含量] ジノテフラン 0.5%

[人畜毒性] 普通物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況(平成21年2月4日 JPP-NET確認)]

作物名	適用害虫	使用量	使用時期	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日 前まで	4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	散布

### 3 利用上の留意点

- (1) ジノテフラン粉剤 DL は商品名にアルバリン粉剤 DL とスタークル粉剤 DL がある。
- (2) 本剤はネオニコチノイド系殺虫剤で速効性と高い浸透移行性を有する。
- (3) 蚕に対する影響が大きいため、桑に付着するおそれがある圃場では使用しない。
- (4) ミツバチに対する影響が大きいため、以下にある「農作物病害虫・雑草防除基準 長野県 特別指導事項 5. ミツバチに対する農薬使用上の危被害防止対策について」に留意し、危被害防止に努める。

「農作物病害虫・雑草防除基準 長野県」の特別指導事項

5. ミツバチに対する農薬使用上の危被害防止対策について

ミツバチは農薬に極めて敏感であるので、防除の実施に際しては養蜂の実態を十分把握しておくこと。特に広域防除を計画する場合は、地方事務所農政課、市町村、各地区の養蜂協会と密接な連絡を保ち、養蜂業者と十分協議して危被害の未然防止に努めること。

(1) 養蜂について

- ・養蜂業者が飼養を行う場所等の情報は、地方事務所農政課、市町村、各地区の養蜂協会を確認する。
- ・採みつ時期は、以下を参考にする。

植物名	採みつ時期	植物名	採みつ時期
りんご	4月下旬～5月中旬	ニセアカシア	5月上旬～7月下旬
そば	8月下旬～9月中旬	トチ	5月上旬～6月下旬
なし	4月中旬～5月中旬	もも	4月中旬～5月上旬
くり	5月上旬～7月下旬		

注) この他、あんず等でも採みつが行われることがある。さい蜜の時期は、気象条件などにより前後する場合がある。また、対象作物は、この限りではない。

(2) 農薬の使用にあたって

- ・農薬の使用上の注意をよく読むこと。特に、ミツバチに影響があるとされる農薬の使用にあたっては注意する。また、ミツバチが活動している時(気温がおおむね13～30となる時間)の農薬散布は、特に注意する。
- ・農薬の飛散がないようにする。特に広域に一斉に農薬を散布する場合には、注意する。また、地形により風向き、風速は複雑に変化することがあるので注意する。
- ・採みつ時期には、みつ源となる植物には農薬がかかることが無いように注意する。
- ・みつ源となる植物の生育状態等により、本来みつ源にならないとされる稲等にも訪花することがあるので、農薬の使用にあたって留意する。

4 対象範囲 県下全域

5 具体的データ

- (1) 平成19年及び平成20年にフタオビコヤガに対する防除効果試験を実施した。平成19年は散布2日後から散布14日後まで実用的な防除効果が認められた。平成20年は散布1日後から散布8日後まで実用的な防除効果が認められた。
- (2) いずれの試験においても、稲に対する薬害は認められなかった。

表1 フタオビコヤガに対するジノテフラン粉剤DLの防除効果(平成19年、農事試験場)

供試薬剤	散布量	100株当たり幼虫数																薬害
		散布前日				散布3日後				散布7日後				散布14日後				
		若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	
ジノテフラン粉剤DL	3kg/10a	11.3	8.0	1.3	20.7	0.3	4.0	0.7	5.0	0.0	3.3	0.0	3.3	0.3	0.3	0.3	1.0	無
無処理	-	11.7	9.3	0.3	21.3	0.3	13.0	3.7	17.0	0.0	6.0	3.3	9.3	1.3	2.0	1.3	4.7	-

数値は1区3ヶ所調査の平均。( )内は補正密度指数を示す。

試験場所:農事試験場圃場、対象害虫発生量:少発生、区制:1区80㎡(1区当たり3ヶ所で調査し、連制に代えた)

耕種概要

品種:コシヒカリ、移植:5月18日(中苗機械移植)、施肥:5月10日ワンタッチS280 40kg/10a、出穂期:8月8日

試験区は波板で区分した。

薬剤散布:7月25日にミゼットダスターを用いて所定量を散布した。

調査方法:散布前日(7月24日)、散布3日後(7月28日)、散布7日後(8月1日)、散布14日後(8月8日)に連続100株の

叩き落とし調査を行い、幼虫を若、中、老齢別に数えた。

薬害の有無は調査時の観察により判定した。

補正密度指数 = (処理区の処理後密度 / 処理区の処理前密度) / (無処理区の処理後密度 / 無処理区の処理前密度) × 100

表2 フタオビコヤガに対するジノテフラン粉剤DLの防除効果(平成20年、農事試験場)

供試薬剤	散布量	100株当たり幼虫数												薬害				
		散布前日				散布1日後				散布5日後					散布8日後			
		若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計		若齢	中齢	老齢	計
ジノテフラン粉剤DL	3kg/10a	15.5	19.5	3.0	38.0	2.5	10.5	2.5	15.5	1.0	11.0	4.0	16.0	0.0	6.5	6.0	12.5	無
						(46)				(37)				(36)				
無処理	-	11.5	27.0	5.5	44.0	4.5	31.5	3.0	39.0	11.0	27.5	11.5	50.0	7.5	19.0	13.5	40.0	-
						(100)				(100)				(100)				

数値は2連制の平均。( )内は補正密度指数を示す。

試験場所:農事試験場圃場、対象害虫発生量:少発生、区制:1区60m<sup>2</sup>(6m×10m) 2連制

耕種概要

品種:コシヒカリ、播種:4月15日、移植:5月20日(中苗機械移植)、出穂期:8月4日

薬剤散布:7月23日にミゼットダスターを用いて所定量を散布した。

調査方法

調査月日:散布前日(7月22日)、散布1日後(7月24日)、散布5日後(7月28日)、散布8日後(7月31日)

調査方法:1区当たり連続100株の叩き落とし調査を行い、幼虫を若齢、中齢、老齢別に数えた。

薬害の有無は調査時の観察により判定した。

補正密度指数=(処理区の処理後密度/処理区の処理前密度)/(無処理区の処理後密度/無処理区の処理前密度)×100

その他:防除効果がやや低い、薬剤散布当日に降雨があり効果に悪影響を及ぼした可能性がある。

## 6 参考データ

平成15年に新潟県植物防疫協会が実施した防除効果試験で、ジノテフラン粉剤DLは無処理に比較し散布7日後の幼虫数が少なく、高い防除効果が認められた。

イネに対する薬害は認められなかった。

表3 フタオビコヤガに対するジノテフラン粉剤DLの防除効果(平成15年、新潟県植物防疫協会)

供試薬剤	散布量	30株当たり幼虫数												薬害
		散布前				散布3日後				散布7日後				
		若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	
ジノテフラン粉剤DL	3kg/10a	2.3	11.0	4.7	18.0	1.7	6.0	1.7	9.3	0.0	0.0	0.3	0.3	無
						(43)				(3)				
無処理	-	3.3	13.7	2.7	19.7	2.0	15.7	6.0	23.7	0.3	3.7	7.0	11.0	-
						(100)				(100)				

数値は3連制の平均。( )内は補正密度指数を示す。

試験場所:新潟県小千谷市、対象害虫発生量:甚発生、区制:1区48m<sup>2</sup>(8m×6m) 3連制

耕種概要

品種:コシヒカリ、移植:5月12日(稚苗機械移植)

薬剤散布:8月16日に背負い式動力噴霧機を用いて所定量を散布した。

調査方法

調査月日:散布前(8月16日)、散布3日後(8月19日)、散布7日後(8月23日)

調査方法:1区当たり30株の叩き落とし調査を行い、幼虫を若齢、中齢、老齢別に数えた。薬害の有無は観察により判定した。

補正密度指数=(処理区の処理後密度/処理区の処理前密度)/(無処理区の処理後密度/無処理区の処理前密度)×100

## 7 特記事項

[ 公開 ]

制限なし

[ 課題名、研究期間、予算区分 ]

新農薬の効果試験、平成19年度(2007年度)、民間受託

農薬等の効果、評価試験、20年度(2008年度)、民間受託